

# (仮称) 郡山市産業振興ビジョン2019～2025 骨子 (案)

資料 1

第2回振興会議  
2018. 8. 31  
産業観光部 産業政策課

## 4つの柱 (目指すべき姿)

基本目標	施策の方向性	施策	意見・反映状況
<b>1. 地域商業の振興～” e-商都” こおりやまの実現～</b>			
	e-commerce時代のICT活用による販路開拓、経営力の向上	クラウドの利用などICTフル活用 e-commerce、キャッシュレスへの対応 (ネット販売戦略)	水野谷委員 クラウドの利用など質の高いICTの活用をもっと進めるべき。
	地域資源を活かした産業の振興	空き店舗活用の推進 6次化産業の推進	相模委員 郡山市は、観光や6次化推進に力を入れているが、6次化商品として完成したものが少ないなど、まだまだ足りない部分が多いと思う。
	域内経済の循環による地域商業の維持	商店街のコミュニティ機能の強化	
	商品力の向上と国内外の販路拡大	商談会・物産展への出展 JETRO、JICA等を活用した海外への商品展開	
	時代に対応できる物流環境の整備・推進	物流システムのIT化・合理化 物流施設整備・充実の情報共有 運送業における若手人材の確保・育成	
	産業振興による地域の活性化	地域の特色ある人材・食など資源の掘り起こし 他の商圈に負けない魅力ある商業環境の充実	
<b>2. 第4次産業革命時代の新産業創出</b>			
	破壊的技術を活用した生産性革命、新産業創出	AI・Iot・ロボットなど新たな技術、新たな製品の販路拡大	
	新たな成長産業の育成・集積、核となる企業の誘致	産業クラスターの形成 戦略的な企業誘致と受け皿となる工業団地の整備	渡部委員 「新産業創出」について、例えば、再エネ・医療・ロボットと言っても、特別な技術だけで成り立っている訳ではなく、色々な技術や分野が関わっている総合的なもの。部品・材料・ソフトなど、関わってくるところは必ずあり、それを見つけていく努力、アンテナの高さが必要である。既存企業も十分に関われる。
	産学官連携と技術革新の推進	異業種間連携による新産業の創出	
	地域産業の高度化・高付加価値化	多様なニーズに合わせた生産性革命	渡部委員 課題解決のための4つの視点が既存企業の「生産性」だけに言及しているが、今は大量生産だけでなく、製品提供の速さ、多品種少量生産など生産の対付加価値をどうつけるか、多様な視点が重要
	最先端研究機関との連携推進による関連産業の育成	産総研、医療機器開発支援センターなどとのシーズ&ニーズの適合	
	新たな資金の確保	クラウドファンディング等の活用推進 JETRO、JICA等を活用した海外への製品展開	産業競争力政策会議
	SDGsに定める産業と技術革新の基盤づくり	産業クラスターの形成【再掲】	

基本目標	施策の方向性	施策	意見・反映状況	
		異業種間連携による新産業の創出【再掲】 産総研、医療機器開発支援センターなどとのシーズ&ニーズの適合【再掲】		
<b>3. 既存企業の「稼ぐ力」の向上</b>				
	企業の生産性向上	販路開拓・マッチング支援 中小企業持続化プロジェクト（事業承継支援事業） 積極的な設備投資	菊地委員	重点分野「稼ぐ力」の向上、生産性の向上や魅力ある企業づくりが今後重要である。また、企業の魅力づくりのためのおせっかい役が必要では。それが郡山の発展に繋がると考えている。
	新技術活用による経営基盤の強化	AI・IoTなど新たな技術・新たな製品の販路拡大 生産性向上と高付加価値の促進 シェアリングエコノミーの活用		
	経営の効率化・労働資源の有効活用	女性・シニア・外国人など新たな人材の発掘・育成《SDGs女性の活躍》【再掲】 ICTやSNSのフル活用	松枝委員	女性の活躍や外国人雇用
	「知の拠点」としての整備	知的財産の活用による産業振興		
	域内経済の循環と市外外貨獲得による地域産業の発展	地域資源の情報発信と活用促進 こおりやま製品のブランド力・魅力の向上 風評の払しょく	山田剛委員	市外に外貨を稼ぎに行く事業者と、地域で経済を循環させ地域を守る事業者の役割があり、商業と工業を一体に考えるからこそ、この役割を考えることが出来る。商業、工業を一体的に検討することが重要である。
	グローバル市場の活用、海外への展開	海外の活力の取り込み JETRO、JICA等を活用した海外進出	学術・研究機関ネットワーク会議	JETRO 日EU・EPA活用促進セミナー／JICA東北との協定締結
	SDGsに定める持続可能な経済成長の促進	地域資源の情報発信と活用促進【再掲】 こおりやま製品のブランド力・魅力の向上【再掲】 風評の払しょく【再掲】	山田剛委員	市外に外貨を稼ぎに行く事業者と、地域で経済を循環させ地域を守る事業者の役割があり、商業と工業を一体に考えるからこそ、この役割を考えることが出来る。商業、工業を一体的に検討することが重要である。

基本目標	施策の方向性	施策	意見・反映状況
<b>4.イノベーションを担う人材育成（人づくり革命）</b>			
	産学官連携による産業革命などに対応できる人材の育成	ものづくりの人材確保、職場の環境整備による生産性向上	水野谷委員 工業振興計画において、ものづくりの人材確保、働く人の職場の環境整備が生産性の向上、質の向上、人材確保・人材育成の視点からも重要である
		企業（産業界）と学校（教育界）のマッチング	飯田委員 ビジョン策定の視点として「イノベーションを担う人材育成」が上がっているが、企業と学校をマッチングするコーディネーターが配置されているとキャリア支援などもうまく進むと感じている。
		キャリア教育の推進（中小企業持続化プロジェクト）	
	新時代を切り拓く多様な起業家の育成	起業しやすい環境整備・ネットワークの構築	連携中枢都市圏ワーキンググループ
		イントレプレナー（社内起業家）の発掘・活用	
		創業者と企業経営者の交流の場づくり	産業競争力政策会議
		人材確保・若者の職場定着（中小企業持続化プロジェクト）	
次世代リーダー（経営人材）の育成	女性・シニア・外国人など新たな人材の発掘・育成<<SDGs女性の活躍>>	松枝委員 女性の活躍や外国人雇用	
	リカレント教育の推進		
経済産業省が目指す「EdTech」（教育×技術）の推進	事業承継やM&Aの推進（中小企業持続化プロジェクト）		
	若い世代への知識、技術の伝承	学術・研究機関ネットワーク会議	
東京一極集中への対策、UIJターンの推進	ICTやAIなどテクノロジーを活用した学習（未来の教室）の推進		
	ICTやAIなどテクノロジーを学ぶ学生・生徒の活用		
	本市優良企業の市外への魅力発信	金内委員 課題解決のための4つの視点について、郡山市内で技術の高い、優れた企業を市の外部に発信する。その企業の魅力発信により、市外からの後継者が見つかるなど人材不足等の問題解決にもつながるのでは。	
時代にマッチした働き方改革の実現	地元就労・職住近接の推進	山田慶委員 得意分野で特色を出すべき	
	キャリア教育の推進（中小企業持続化プロジェクト）【再掲】		
	柔軟な働き方がしやすい環境の整備（テレワークなど）		
	郡山の特性を活かしたワークライフバランスの実現	産業競争力政策会議／まちひとしごと有識者会議	
	セーフコミュニティに基づく安全安心な労働環境づくり		

基本目標	施策の方向性	施策	意見・反映状況	
4つの柱（目指すべき姿）の実現・推進に向けて				
① 連携による産業振興			高橋委員	国が策定した小規模企業振興基本計画にある成長発展のみならず、事業の持続的な発展という理念に照らした場合、4つの視点ですぐいとれないものが出てくる可能性がある。
業種間連携		農業との連携 観光産業との連携 福祉産業との連携	相模委員	郡山市は、観光や6次化推進に力を入れているが、6次化商品として完成したものが少ないなど、まだまだ足りない部分が多いと思う。
各界各層との連携		経済支援団体（商工会議所、商工会など）との連携 経済団体（同友会など）との連携 金融機関との連携 研究機関・高等教育機関との連携 士業との連携		学術・研究機関ネットワーク会議
地域における連携		市内各地区間連携 広域連携（連携中枢都市圏「こおりやま広域圏」59万） 域外連携（首都圏、姉妹・友好都市、海外など） 避難者・事業者等との連携		産業競争力政策会議／連携中枢都市圏ワーキンググループ  松枝委員 13市町村の被災者への配慮
② ビジョンの実現・推進に向けて（地域別構想）				
中心市街地		本市玄関である郡山駅前の魅力向上 郡山駅の更なる活用		
近隣地域		既存商店街の活性化 郡山富田駅を活用した産業の振興（メディアクリエイション） その他JR各駅を活用した産業の振興		
周辺地域		買物弱者への対策 地域伝統産業の継承 工業団地の整備		
インターチェンジ周辺地域開発の検討		拠点地区へのアクセスのしやすさ 大型複合施設等の誘致（59万広域圏） ※福島県商業まちづくり条例の見直しの動向注視 新たな時代に対応できる物流環境の整備	相模委員	産業競争力政策会議 建設中のスマートインターチェンジ周辺を観光拠点として位置づけるなど、観光に力を入れていただきたい。